

マラウイ（アフリカ）を知ろう、深めよう、貢献しよう

三次市立川地中学校 担当教科：社会科

石濱 守央

●実践教科：社会／選択社会 ●時間数：1年5時間、3年4時間 ●対象学年：中学1年生／3年生 ●対象人数：1年14名、3年20名

実践の目的

- ・アフリカ（マラウイ）を通して、アフリカの地理的理解を深める。
- ・マラウイで活躍する青年海外協力隊員の活動を通して、国際貢献に対する理解を深める。

授業の構成

1年生

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	マラウイの友だちにプレゼントを贈ろう	・国語（書写）の授業においてマラウイの中・高校生にプレゼントする習字の作品を書く ・予め書く言葉を設定し、短冊状にしておく	・習字のお題
2	マラウイ報告	・マラウイのお土産の使い道を考える ・マラウイの写真を見る ・生徒の要望に対する答え	・チテンジ ・写真
3	課題設定のために	・パソコン室にてマラウイに関する写真を共有状態にしておき、マラウイについて調べてみたいことを各生徒が考えて、課題を設定した	・写真
4 5	調べる まとめる	・自ら設定した課題に対してインターネット等を利用して調べ、まとめる学習を行った	・インターネット ・JICAの冊子

3年生

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	マラウイ研修報告①	・「なんとかしなきゃ！」のポスター（水を運ぶ少女）を見て、アフリカの課題を考える ・マラウイの平均寿命、電化率、そして1日の生活費等についてデータを元に考える	・ポスター ・ワークシート
2	マラウイ研修報告②	・マラウイの写真や動画で具体的にマラウイをイメージする	・写真 ・動画
3	貧困の輪から課題発見へ	・貧困の輪（資料）を見る ・マラウイの課題を焦点化するためにグループ討議を行う	・「貧困の輪」資料

4	アフリカで活動する人々の生き方に学ぶ	・自身のマラウイにおける病気体験とマラウイの医療について学習する ・日本テレビ系「行列のできる法律相談所、スーダンの医師川原尚行と元サッカー日本代表本田泰人」を視聴する ・視聴後、自分と国際協力に関するまとめを行う	・病院の写真、薬、診断書、領収書 ・番組素材 ・ワークシート
---	--------------------	---	--

授業の詳細

1年生-1 限目

マラウイの子どもたちにプレゼントする習字の作品を書く授業を行った。事前に国語科教員と打ち合わせを行い、20の語句を設定し、それを生徒が選んで書いていくという方法をとった。

マラウイ アフリカ 日本 富士山 ふるさと 家族
学校 平和 山 海 湖 広島 ありがとう 幸福
空 成長 太陽 自由 友情 生命



テーマを選ぶ



授業の導入で私がマラウイに行くこと、アフリカの子どもたちに習字をプレゼントすることを語ったこともあり、生徒はとても意欲的に習字に取り組んだ。

14人で20のテーマなので、お題が余るだろうと思っていたが、「先生、2枚書いてもいいですか」と問いかけてくる生徒がおり、結局20枚の作品ができあがった。

〈所感〉

授業は国語科教員中心に行ったが、この時間は私が補助として入り、導入の部分の語りかけや、生徒の質問を受けるなど、和やかな雰囲気で行われた。生徒の中にまだ見ぬアフリカ（マラウイ）への興味・関心が高まってきていることを実感することができた。

1年生-2 限目

マラウイで購入してきたお土産類について、ものの使い道を考えるという形で取り入れた。生徒に見せたのは次の3点である。

木彫りの地球儀 黒板消し チテンジ

木彫りの地球儀は比較的早い段階で正解にたどり着いたが、中がくりぬかれ半分に分かれていることにビックリしていた。

次に見せたのは黒板消しであるが、これはなかなか正解が出ず、



黒板消し

彼らにとって意味不明の物体に見えたようである。

最後にチテンジである。当然であるが、布だと生徒は答える。では、この布はどのように使うかと問いかけると生徒は大いに悩む。テーブルクロスと答えたり、大きな風呂敷のようなものだと答えたりする生徒もいた。

そこで、2人の生徒に前に出てきてもらいチテンジをスカートのように着用するモデルになってもらった。生徒からは「かわいい」や「デザインがきれい」という声が聞こえてきた。

7月の夏休み前の授業で1年生の生徒14名にいくつかのアンケートをとっていたが、その問いの中に「石濱先生にマラウイでやってきてほしいことは何ですか」という項目を入れていた。できること、できないこといろいろ出てきたが、それに対する回答を行った。



マラウイに関するアンケート (2010. 7. 20)

✓ Question① あなたは、マラウイで何をしてみたいですか。

- ・野生の動物に会う。
- ・動物たち（珍しい動物）とふれあう。
- ・クロサイに乗る。
- ・魚を釣りたい。
- ・有名などころへどこでもいいから行きたい。
- ・マラウイの家に泊まってみたい。
- ・建物に入りたい。動物を見たい。湖を見たい。
- ・ライオンなどの野生動物を生で見たい。
- ・ゾウの背中に乗り、散歩する。マラウイでおいしいものを食べる。
- ・シマを食べる。（4人）

✓ Question② 石濱先生にマラウイでやってきてほしいことは何ですか。

- ・虫を食べる。
- ・マラウイの水を飲んでください。
- ・散髪屋でお任せのカットをしてもらう。
- ・マラウイで料理を一つでも覚えて、作れるようになってほしい。
- ・シマを食べてほしい。
- ・生徒の名前を全部覚える。シマを買ってくる。マラウイ湖の水を飲む。
- ・生徒たちや行った場所で必ず写真を撮ってくる。
- ・いろいろな動物とふれあってほしいし、それを帰ったら紹介してほしい。日本のよいところをマラウイの人たちに紹介してほしい。
- ・動物、植物の写真を撮ってきてほしい。
- ・マラウイ湖で釣った魚を食べる。
- ・たくさんの子どもたちとふれあってほしい。
- ・Tシャツを持って帰ってください。

✓ Question③ マラウイの中学生に聞いてみたいことは何ですか。

- ・どんな勉強をするのですか。（2）
- ・日本人のことをどう思いますか。
- ・一番好きな遊びは何ですか。（2）
- ・願いが一つ叶うなら何を願いますか。
- ・ゴリラに会ったことはありますか。
- ・日本に来たら最初に何をしたいですか。
- ・日本のアニメを知っていますか。
- ・旅行に行ったことはありますか。
- ・日本のことを少しでも知っていますか。
- ・日本に来てみたいです。
- ・一番ほしいものは何ですか。
- ・生活は楽しいですか。

〈生徒の感想〉

- ・マラウイには自然がたくさんあることにびっくりしました。とくにバオバブの木はとても大きくて、アフリカのイメージにぴったりでした。
- ・マラウイの子どもたちは「シマが好き」だそうですが、その理由はおなかいっぱい食べられるからというのを聞いて、わたしたちの言う「おいしい」や「まずい」からかけ離れていると思いました。
- ・マラウイ湖が海に見えてビックリした。
- ・マラウイは、日本みたいに豊かじゃないけど、子どもたちは幸せそうだった。

〈所 感〉

マラウイについて、生徒たちは少しずつイメージを具体化させていると感じた。一人一人の感想を見たとき、しっかりマラウイの概要はつかんでいることが分かった。そして、自分たちの書いた習字がマラウイの子どもたちに渡った写真を見たときが、生徒が最も感動した瞬間だったようである。



チンコンベ中高等学校にて

1 年生 - 3 限目

前回までの指導者の話を受けて、本時は自らの課題を設定する授業を行った。本校の生徒はコンピュータを使った調べ学習にとっても興味を持っており、コンピュータに関するスキルもかなり高い。そこで、私が撮影した写真だけでなく、共に参加された先生方が撮影した写真も全て共有の状態にして生徒に見せた。14人しかいない生徒なので、こちらの目も行き届きやすく、生徒も気兼ねなく質問をしてくれる。授業の終わりには、振り返りと調べてみたいことをまとめさせた。

〈生徒の調べてみたいこと〉

- ・バオバブの木のしくみ
- ・マラウイの学校に通っている子どもたちの授業について
- ・マラウイの政治
- ・マラウイの保育所について
- ・マラウイの人々の暮らし、一日の流れ
- ・農産物の生産はさかんなのかについて

〈所 感〉

マラウイに関する調べ学習の取りかかりの授業だったが、生徒は積極的に取り組んだ。写真や動画で見たものをもっと深める学習だったが、生徒たちは楽しみながら自らの課題設定を行っていた。コンピュータの操作の苦手な生徒もいるので、私はできるだけそういう生徒に支援できるように配慮した。

1 年生 - 4 ・ 5 限目

3 時限のテーマ設定を受けて自らのテーマに対する調べ学習を行い、まとめる作業を行った。参考資料はインターネットのWebページを使用した。主なホームページは、はじめに「お気に入り」に登録しておき、さらに深める資料については生徒自身でネット検索することとした。また、今回の海外研修で入手した様々な資料やJICAの刊行物等を自由に参照できるようにしておいた。

〈所 感〉

1 年生にとって、個人で各自のテーマに迫る学習は困難であった。あと一息でたどり着ける生徒もいるし、ほとんどテーマに迫れない生徒もいた。その要因を考えてみたが、その大きな原因は時間不足である。今までの経験から、調べる学習で3時間、まとめで2時間が必要だった。しかし、本年度のシラバスに位置づけられていなかった今回の学習でこれ以上の時間はとれなかった。いかにして時間を作り出すかについて知恵を絞りたい。

3年生-1 限目

導入でJICAのポスター「なんとかしなきゃ！」のバケツを担いでいる少女の写真と、同じくJICAの冊子「JICAの仕事」の水が出た！から気づくことや、感じることを交流した。

その後、出生児の平均余命41歳、電化率7%、1日2ドル以下の生活人口の割合76%というデータを提示し、マラウイの現状について考えた。



なんとかしなきゃプロジェクト



「JICAの仕事」P.5 水が出た！

〈生徒の感想〉

- ・平均寿命とHIVの感染者の人たちの話が気になります。もっと深く知りたいです。
- ・マラウイの人たちはどんなところに住んで、どんな生活をしているのかをもっと知りたい。
- ・みんな貧しそうだけど、いきいきとした目をしていて、楽しそうに見えた。
- ・電化率が低いのに携帯電話を使っている人がいた。不思議だ。

〈所感〉

2枚の写真資料から水の問題を考える導入は、わかりやすかったようだ。アフリカだけではなく、水の入手が困難な地域は様々な困難があることに生徒は気づくことができた。

出生児の平均余命41歳、電化率7%、1日2ドル以下の生活人口の割合76%というデータを示したとき、生徒にマイナスのイメージを与えすぎないかと心配したが、写真を準備しておいて生徒に見せたので、少し肯定的な感想文が出てきたのだと思う。



ゴスペルを歌い、踊る



HIVサポートグループ



自転車に乗って携帯電話

3年生-2 限目

マラウイの人々の暮らしについて、具体的に動画や写真資料を使って学習を進めた。

病院、学校、保育所、エイズの支援グループの人々などの写真や動画を用いて生徒に説明した。

動画は説得力があり、特にHIVサポートグループのみなさんや、ゴスペルを歌い・踊る子どもたち、中・高等学校での生徒のダンスは本校の生徒たちの心をとらえたようだ。

〈生徒の感想〉

- ・マラウイの人たちの生活は、昔の日本と同じようなところがありました。食べ物などを外にならべて売っていました。
- ・今日は写真や動画を見て、マラウイの人はとても元気だなと思った。いろいろと不自由なことが多いのにもかかわらず、人々が明るくすごしていることに驚いた。

〈所 感〉

この日はマラウイで買った服を着てCDプレーヤーでアフリカンミュージックを流し、マラウイの国旗の小旗を持って登場して生徒の驚きを狙うが、空振りに終わる。しかし、マラウイで買った太鼓をたたき、持って帰ることに苦労した話をするやや笑いが起こった。生徒は実物教材が本当に好きであるということを、この日の授業で再認識した。パワーポイントや動画を使ってマラウイで見てきたこと学んだことを生徒に伝えたが、実施するたびに伝えることの難しさにぶつかってしまう。写真や動画の持っている力をもっと信じて、多くを語らず我慢することが大切であるが、社会科の教師の悲しさでつい話しすぎてしまった。今後の反省課題である。

3 年生－ 3 限目

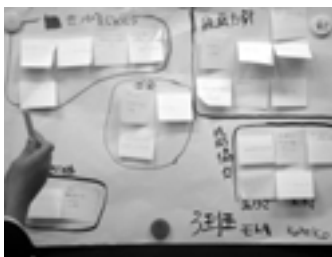
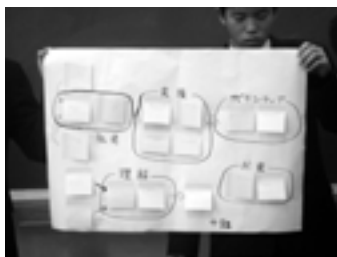
導入として、貧困の輪を拡大表示し生徒に見せた。

「環境の悪化→インフラの未整備→保険・医療の不備→未熟な経済活動→不十分な教育→食糧不足→環境の悪化」という資料を生徒に提示することで何をする必要があるのかを考えさせた。

その後、KJ法（文化人類学者、川喜田二郎考案のデータ整理法）を用いて「マラウイを貧困の輪から断ち切るには何が必要か」を各自が思考し、グループでまとめるという作業を行った。生徒は積極的に作業を行い、4つのグループでそれぞれの考えをまとめていった。そして、それぞれのグループで発表を行った。特に大事だと思うことをグループごとに1つずつ示した。

キーワード 医療、教育、農業の支援、募金活動

〈3年生の生徒の活動〉



〈生徒の感想〉

- ・自分たちの意見をまとめ、発表するのは少し緊張しました。他の班の考えも聞き、すごいなと思いました。今回の授業のように他の国について話し合うことはとても大切なことだと思いました。今度は何か行動できたらいいです。
- ・学校でやっているペットボトルのキャップを集める活動がアフリカの子どもたちを救うことになっていることがとてもよく分かったので、もっとキャップを集めたい。
- ・今回みんなの発表を聞いて、いろいろな意見が出るんだなと思った。自分も何か行動できたら世界のためになると思う。みんなで動くとガラッと変わるのかな？

〈所 感〉

3年生の授業の流れの中で中心に据えて考えたのが本時である。1学期の早い段階で公民の教科書に出てくる「国際貢献」や「青年海外協力隊」の知識を活用し、これまで学習したマラウイの現実と照らし合わせて自分たちの力で考えさせたかったのであるが、予想以上に生徒は積極的に活動した。彼らが導き出した結論はまだまだ未熟である。しかし、中学3年生として精一杯であったことも伺える。日頃の授業で眠ったまま動かない生徒や、授業に集中できない生徒が全員授業に参加していたのである。この子たちはまだまだ可能性を秘めているのだと改めて実感した1時間であった。

3年生－4 回目

今回の導入は、私のマラウイでの病気体験である。マラウイでの研修中に風邪をひいて、持病の蓄膿症まで併発した私は、マラウイの病院に行った。

この病院は私立の病院であり、設備の充実した病院だった。しかし医療費はかなり高額で2日間で15,560クワチャ（日本円で約26,000円）を支払った。ただし、この医療費にはマラリアの検査料も含まれているし、日本でいう健康保険は適用されていない。それに対して、公立の病院では医療費は無料だが医療レベルは高いとはいえないのが現状である。

そこで、本時は5月に放映された日本テレビ系「行列のできる法律相談所、スーダンの医師川原尚行と元サッカー日本代表の本田泰人」を視聴させ、自らが動くことについてさらに深く考えさせることとした。



MARSA INTERNATIONAL医院



病院の入口



マラリア検査機

〈生徒の感想〉

- ・川原先生の生き方はすごいと思う。私も将来は困っている人たちのために手をさしのべられる人になりたい。
- ・本田さんは、アフリカに行って涙を見せるようになったが、それはなぜなのでしょう。サッカーをやるにもイスラム教とキリスト教で対立があるといっていたが、宗教ってほんとに難しいのですね。
- ・外国に行って国際貢献することにますます興味がわいてきました。もっと勉強したいです。

〈所 感〉

5月に初めて見たこの番組は、私にとってたいへん意味のあるものとなった。何度見ても感動

して涙が出るのである。きっと力のある素材だと思ってほとんど手を加えず、CMカットと前後を少しカットする程度にとどめたが、この編集作業中にも泣いてしまうのである。さすがに授業中は泣かずにすんだが、生徒の方がとても感動してディスプレイに食い入っていた。日本にも川原さんのようなすばらしい人がいるのだと誇りに思うし、本田さんのアフリカ体験（サッカー指導）もスポーツ大好きな中学生に響く内容であった。視聴覚教材を効果的に見せることにより生徒の心情に迫れたと思う。

前段の医療の問題も本来なら1時間かけて行うべき内容であるが、時間の都合で導入程度の扱いとなった。今後さらに内容を吟味し、しっかり考えさせていきたいと思う。

全体を通しての成果と課題

国際理解教育を進める社会科の教員として今考えることは、系統的に生徒に学習することであると考える。本年度の実践はその意味では中途半端なものであった。1年生で知り、2年生で深める、3年生で行動することを意識させた学習をすることを狙ったが、2年生での実践はほとんどできなかった。その理由は2つある。

1つは、本校では総合的な学習の時間が年間計画で固まっており（特に2年生）、国際理解教育の入る隙間がなかったという点である。2つめは、シラバスとの整合性である。1年生の地理では世界の国々を学ぶ学習があるが、2年生ではその計画を立てていなかった。シラバスにない指導内容を年度途中で挿入することはとても困難である。以上の2点から、本年度の取り組みの不十分さを反省したい。

課題から述べてしまったが、生徒は「マラウイ（アフリカ）に行った石濱先生」という認識を持ってきて、アフリカのことに興味・関心を持つ生徒も増えてきたと思う。来年度以降は新学習指導要領に向けてますます指導にかけられる時間はとりにくくなるだろうが、シラバスに教育内容を位置づけて系統的・段階的な国際理解教育を進めていくよう努力していきたい。

参考資料

参考資料

【書籍】

- ・佐藤幸治他著（2008）「中学社会 公民的分野」日本文教出版
- ・国際協力機構（2010）「JICAの仕事」

【映像資料】

- ・日本テレビ「行列のできる法律相談所」2010. 5. 2 放送分

【インターネット】

- ・「駐日マラウイ共和国大使館公式HP」<http://www.malawiembassy.org/jp/index.html>
- ・「日本マラウイ協会」<http://www.h4.dion.ne.jp/~malawi/>
- ・「外務省HPアフリカマラウイ」<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malawi/>
- ・「ウィキペディアマラウイ」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%83%A9%E3%82%A6%E3%82%A4>